

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：高速道路課

担当課長名：縄田 正

事業名	第二東海自動車道 はだの ごてんば (秦野～御殿場JCT)	事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 神奈川 ^{はだの やながわ} 県秦野市柳川 ^{ごてんば こまかど} 至) 静岡県御殿場市駒門	延長	3.3 km		
事業概要					
第二東海自動車道は新名神高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。					
H17年度事業化		H6年度都市計画決定		H - 年度用地着手	
H - 年度工事着工		H - 年度用地着手		H - 年度工事着工	
全体事業費	5,056億円	事業進捗率	1%	供用済延長	0 km
計画交通量	約48,300台/日～約50,600台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 2.7 (残事業) 2.7	(残事業)/(事業全体) 4,012/4,068億円 事業費：3,720/3,775億円 維持管理費：292/292億円	(残事業)/(事業全体) 10,839/10,839億円 走行時間短縮便益：10,113/10,113億円 走行経費減少便益：565/565億円 交通事故減少便益：162/162億円	平成22年	
感度分析の結果					
: 残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C=3.0 (交通量 +10%) B/C=2.4 (交通量 -10%)				
事業費変動	: B/C=2.5 (事業費 +10%) B/C=3.0 (事業費 -10%)				
事業期間変動	: B/C=2.8 (事業期間 -1年) B/C=2.6 (事業期間 +1年)				
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる ・ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる ・ 緊急輸送路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する 他18項目に該当 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>< 神奈川県 > 第二東海自動車道は、我が国の社会経済活動の根幹を担う新たな大動脈として、慢性的な渋滞に陥っている東名高速道路と交通機能の分担をすることで、高速性・定時性を確保するとともに、地震等による災害発生時には、代替路及び緊急輸送路としての役割を果たす極めて重要な路線である。また、県民や企業の期待も大変大きく、引き続き、本事業を強力に推進し、早期完成を図りたい。(H22.11.25)</p> <p>< 静岡県 > 本事業は、我が国の社会経済活動の根幹を担う新たな大動脈として、慢性的な渋滞状況に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保するとともに、地震等による災害発生時には、代替路及び緊急輸送路としての役割を果たす第二東海自動車道を建設する極めて重要な事業である。今後も、効果が早期に発現されるよう事業の推進をお願いします。(H22.11.17)</p>					
事業評価監視委員会の意見					
対応方針(原案)のとおり了承。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
東名高速道路の利用交通量が年々増加し、交通容量を上回っている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
現在設計協議実施中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
今後も引き続き地元設計協議及び用地取得の推進を図る。					
施設の構造や工法の変更等					
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					
 <p style="text-align: center;">注: 本資料のIC名については全て仮称</p>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの